

## [成果情報名]飼料用米や米粉原料向け水稻中生品種「ミズホチカラ」の特性

[要約]水稻中生品種「ミズホチカラ」は、「ヒノヒカリ」より出穂期がやや遅い中生の晩で、成熟期はかなり遅い。1穂籾数が多く、千粒重も重く、収量性は「ヒノヒカリ」より優れ多収である。玄米の外観品質は腹白粒の発生が多くかなり劣る。

[キーワード]イネ、ミズホチカラ

[担当]農林技術開発センター・農産園芸研究部門・作物研究室

[代表連絡先]電話0957-26-3330

[区分]農産

[分類]指導

## [背景・ねらい]

近年、水田を有効に活用し、我が国の食料自給力・自給率の向上を図るため、米粉用や飼料用など新たな利用に対応した米（新規需要米）の生産への取り組みが始まっている。そこで、飼料用米や米粉原料向けに育成された水稻中生品種「ミズホチカラ」の本県での特性を明らかにする。

## [成果の内容・特徴]

「ミズホチカラ」（奥羽326号／86SH283長：九州沖縄農業研究センター育成）は「ヒノヒカリ」と比較して次のような特性を有する。

1. 出穂期で3～5日遅い“中生の晩”であり、成熟期はかなり遅い（表1）。
2. 稈長は短く、稈質は硬く、耐倒伏性は強い（表1）。
3. 穂長は長く、穂数は少なく、一穂籾数は多い（表1,2）。
4. m<sup>2</sup>当たり籾数は多く、登熟歩合は低い（表2）
5. 玄米の千粒重は重い（表1）。
6. 粗玄米重、精玄米重ともに重く、多収である（表1）
7. 粒は大きく、粒厚は厚い（図1）。
8. 玄米の外観品質は腹白粒の発生が多く、かなり劣る（表1）。

## [成果の活用面・留意点]

1. 品質は劣るが、米粉加工適性は良い。
2. 成熟期が、「ヒノヒカリ」に比べかなり遅いので、収穫前の早期落水に注意する。
3. ベンゾビシクロン、テフリルトリオン、およびメソトリオンなどトリケトン系の4-PPD阻害型除草成分を含有した除草剤は、甚大な薬害を生じるので絶対に使用しない。

[具体的データ]

表1 生育および収量、品質

品種	試験年	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	倒伏	穂長 (cm)	穂数 (本/株)	千粒重 (g)	粗玄米重 (kg/a)	精玄米重 (kg/a)	玄米 品質
ミズホチカラ	1992年	9/2	11/7	74.3	0	19.5	12.6	25.3	77.2	74.9	9.0
	1993年	9/7	11/18	62.3	0	20.2	12.6	21.8	67.3	60.1	9.0
	2009年	8/27	10/26	76.4	0	21.2	12.0	25.4	74.8	71.5	9.0
	平均	9/1	11/6	71.0	0	20.3	12.4	24.2	73.1	68.8	9.0
ヒノヒカリ	1992年	8/28	10/8	86.6	0.8	18.7	17.1	22.2	62.4	57.8	5.0
	1993年	9/2	10/20	82.3	0	18.2	16.0	21.3	51.9	49.8	7.0
	2009年	8/24	10/1	87.2	0	19.5	14.7	23.3	60.5	58.9	4.0
	平均	8/28	10/9	85.4	0.3	18.8	15.9	22.3	58.3	55.5	5.3

注1)移植期は6月17～20日、3本/株手植え、栽植密度は22.2株(30cm×15cm)

2)窒素施肥量(kg/10a)：基肥5+追肥2+穂肥3 (奨励品種決定調査の標肥)

2)精玄米重は1.8mmふるい目で調整したもの

3)品質は1(上の上)から9(下の下)

表2 籾数と登熟歩合(2009年)

品種	1穂籾数 (粒)	m籾数 (×100粒)	登熟歩合 (%)
ミズホチカラ	144.0	386	75.4
ヒノヒカリ	88.0	287	88.7

注1)代表株3株の3反復調査

2)登熟歩合の調査は塩水選で実施(比重1.06)

表3 玄米品質(2009年)

品種	完全粒 (%)	腹白粒 (%)	心白粒 (%)	乳白粒 (%)
ミズホチカラ	2.7	77.7	0	0
ヒノヒカリ	53.7	0	9.3	1.3

注)100粒3反復目視調査

[その他]

研究課題名：稲・麦・大豆奨励品種決定調査

予算区分：県単

研究期間：1953年～

研究担当者：古賀潤弥、前田英俊

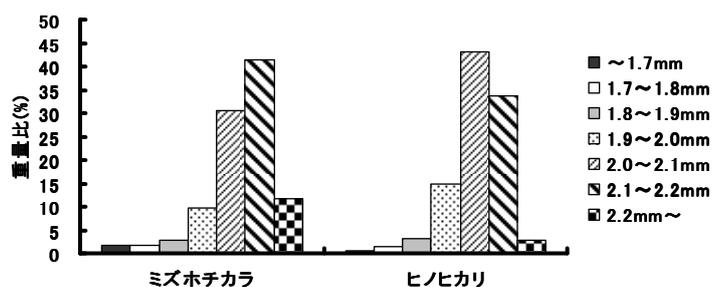


図1 粒厚分布(2009年)